

2021年11月30日

「御所市における歴史的建築物活用に関する連携協定」を締結！！

～御所市、株式会社NOTE奈良と連携し、御所まちの開発に取り組みます～

南都銀行（頭取 橋本 隆史）は、本日、御所市（市長 東川 裕氏）および株式会社NOTE奈良（代表取締役 大久保 泰佑氏）との三者間で「御所市における歴史的建築物活用に関する連携協定」を締結しました。

本協定の締結により、御所市が有する歴史的建築物に関する情報や地域資源と、株式会社NOTE奈良が有する利活用ノウハウをマッチングさせることが可能となり、案件発掘から利活用までの「まちづくり」に展開させることが期待できます。

本協定の第一弾として、三者は『GOSE SENTOU HOTELプロジェクト』に取り組みます。具体的には、「奈良古民家まちづくりファンド」*を活用し、「御所まち」にある廃銭湯を銭湯として復活させるとともに、古民家を宿泊・飲食施設へリノベーションします。（開業 2022年8月予定）

協定の内容は以下のとおりです。

※当行、株式会社NOTE、三井住友ファイナンス&リース株式会社が100%出資するSMFLみらいパートナーズ株式会社の3社が共同で出資する「奈良古民家まちづくりパートナーズ株式会社」が運営するファンド

記

【協定締結日】

2021年11月30日（火）

【連携事項】

- （1）歴史的建築物を活用した街並み整備に関する事。
- （2）空き家となっている歴史的建築物の保存・活用に関する事。
- （3）歴史的建築物を活用した中山間地域の活性化に関する事。
- （4）歴史的建築物を活用した観光振興に関する事。
- （5）第1号から第4号の事業に係るセミナー、ワークショップ及び情報発信に関する事。
- （6）第1号から第4号に関する情報交換及び資金調達に関する事。
- （7）その他前条の目的に資する地域の活性化に関する事。

【本件に関するお問合せ先】

地域事業創造部

とみた
富田

TEL：0742-81-3103

経営企画部（広報担当） ことが こうむら
古賀・甲村

TEL：0742-27-1599

御所市御所まちについて

江戸時代から変わらない寺内町と商家町を有するまち御所まちは、江戸時代初期に形成された陣屋町です。

その後も奈良中南部の中心地として繁栄を誇ってきました。御所まちは、一つの川をはさんで西岸には商業都市の西御所（商家町）、東岸は寺内町の東御所と、二つの町が形成され、江戸時代の検地絵図がいまでも使えるほど、町のかたちはよく残っています。

家々の間を流れる水路（背割り下水）まで、ほぼ当時の姿をとどめるなど、伝統的な建物が今なお大切に守られ、歴史的建造物群保存地区に匹敵する街並みが維持されています。

GOSE SENTOU HOTEL（銭湯ホテル）プロジェクトについて

株式会社NOTE奈良（以下、NOTE奈良）と御所市が本連携に基づき取り組む、御所まち所在の古民家銭湯「宝湯」を中心とした「泊・食・湯」分離の分散型まちづくり事業です。

第1期では、御所まちにある4つの古民家を活用し、銭湯・ホテル・レストランを一体的に開発します。

現状は、主要観光拠点である葛城山等への交通の結節点（ハブ）となっておりますが、日帰り主体の観光に留まっており、「泊・食・湯」分離の滞在型拠点として再生することで、域外からの観光流入・観光消費増大を進めるものです。

御所は、修験道の開祖「役行者」出生地でもあり、修験宗大本山「吉祥草寺」には、役行者を灌浴させ生まれたという井戸（水）が残ります。その他、全国でも名高い3つの酒蔵を擁するなど、豊かな水に支えられた多様な地域資源を有しています。

NOTE奈良は、建物がもつ価値や景観を最大限に守りつつ、後世に続くよう利活用すべく、人の賑わいの中核拠点であった「宝湯」の「湯と水」を切り口とした「泊・食・湯」分離の分散型まちづくりに取り組まれます。

